

事業者温室効果ガス削減報告書概要(第一計画期間) 第3年度分

1 事業所の概要

事業者の名称	仙台飼料株式会社		
事業所の名称	仙台飼料株式会社		
事業所の所在地	宮城県仙台市宮城野区港4-10-2		
主たる事業	飲料・たばこ・飼料製造業		
事業者の該当要件	<input type="radio"/>	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針	弊社のエネルギー管理標準のエネルギー管理方針に基づく。 ① 省エネルギーの年度目標を定め、目標達成に努める。 ② 省エネ法に基づく管理標準を定め、遵守に努める。 ③ 従業員全員参加の省エネルギー活動に努める。 省エネルギーを進めることにより、エネルギー使用量の削減により温室効果ガス削減に努める。		

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの削減目標	基準年度	2019年度	基準排出量	5,428 t-CO ₂	基準原単位	15.18
	目標年度	2022年度	目標排出量	5,265 t-CO ₂	目標原単位	14.72
温室効果ガスの排出状況	第1年度	2020年度	削減率	3.00%	削減率	3.03%
			排出量	5,545 t-CO ₂	排出原単位	15.6
	排出量等の増減理由	製造量が昨年と同じぐらいなのに対して社内での電力使用量の4割～5割、都市ガスの約99%を占める加工品の製造割合の増加による原単位の悪化に伴い、CO2排出量も増加傾向となっており削減率がマイナスとなってしまった				
		第2年度	2021年度	排出量	5,248 t-CO ₂	排出原単位
	排出量等の増減理由	製造量が昨年度よりさらに5%ほど減少した事に対して社内での電力使用量の4割～5割、都市ガスの約99%を占める加工品の製造割合が昨年度とほぼ横ばい状態であり昨年度と比較すれば原単位は改善したものの基準年度と比較すると悪化してしまっている。エネルギー使用量は製造量減少しよりこちらも減少傾向にあるためCO2排出量は削減されている。				
		第3年度	2022年度	削減率	-2.16%	削減率
	排出量等の増減理由	製造数量は昨年度とほぼ横ばいであった。それに対して社内での電力使用量の4割～5割、都市ガスの約99%を占める加工品の製造割合が昨年度より約3%少なかった。それに伴いエネルギー使用量は前年度より下回る結果となった。また、製造工程の見直しコンプレッサの圧力の見直しも効果があった。その為、排出量、原単位ともに今年度の削減率につながった。				
		第3年度	2022年度	排出量	4,990 t-CO ₂	排出原単位
排出量等の増減理由	製造数量は昨年度とほぼ横ばいであった。それに対して社内での電力使用量の4割～5割、都市ガスの約99%を占める加工品の製造割合が昨年度より約3%少なかった。それに伴いエネルギー使用量は前年度より下回る結果となった。また、製造工程の見直しコンプレッサの圧力の見直しも効果があった。その為、排出量、原単位ともに今年度の削減率につながった。					
	第3年度	2022年度	削減率	8.06%	削減率	3.16%

3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	61 %	目標年度	75 %
	第1年度	71 %	実施状況の説明等	予定通り実施出来ない件と、予想外に実施出来た件があった。
	第2年度	75 %	実施状況の説明等	今年度はほとんど新たに実施することが出来なかった
	第3年度	75 %	実施状況の説明等	今年度もほとんど新たに実施することが出来なかった。会社全体への周知が出来ていなかった。
選択対策の実施状況	項目			実施状況
	生産性管理			実施済
	エネルギー使用量の見える化(前年度比較)			実施済
	エネルギー使用量の見える化(分計による課題発見)			実施済
	ファン、ブロワ、給気系統の保全管理			実施済
	ポンプ、給水系統の保全管理			未実施
その他の対策の実施状況	項目	具体的な取組内容		実施状況
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	従業員への周知をさせて、省エネ同様に会社全体で取り組むように進めて行く。		未実施